

令和4年度県産材生産量について

1 要旨

本県では、令和3年度から「2025 広島県農林水産業アクションプログラム」に基づき、将来にわたって毎年40万 m^3 を持続的に生産できる体制の整備に取り組んでいるところであり、この度、令和4年度の県産材（スギ・ヒノキ）生産量が確定したので報告する。

2 背景

年間40万 m^3 の県産材を持続的に生産していくため、傾斜が緩く道から近い等の好条件を備え、持続的な林業経営を行うことが可能となる事業地の集約化や担い手の育成などの生産基盤の整備、森林に関する情報を関係者が共有して利活用するデジタル情報基盤の整備及び再造林を確実に実施するための技術基盤の整備に取り組んでいる。

3 概要

(1) 調査対象

県内における全ての素材生産業者88者と原木流通業者7者

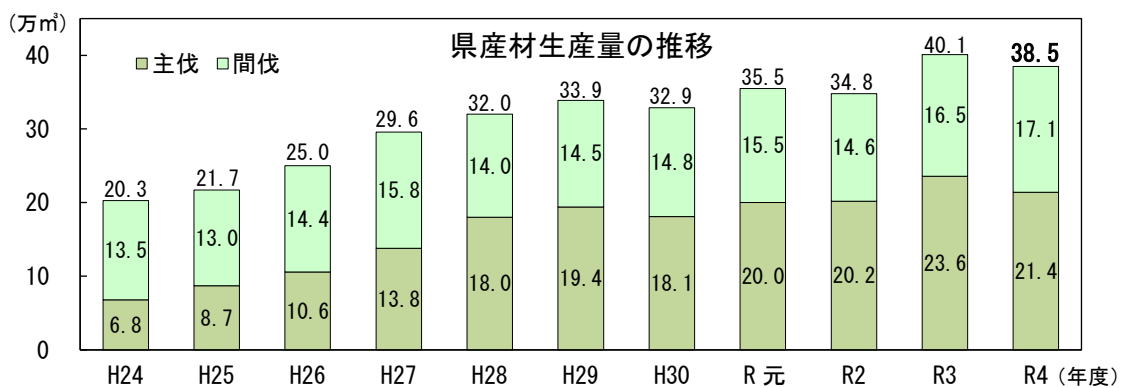
(2) 調査期間

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(3) 調査結果

令和4年度の県産材生産量は前年度比96%の38.5万 m^3 であり、前年度より若干の落ち込みはあったものの、過去2番目の生産量となった。

減少した主な要因は、①隣県の大規模合板工場火災による受入制限の影響から、スギの生産量が抑制されたこと、②いわゆる「ウッドショック」により、令和3年度に材価の高騰により生産量が伸びた一方で、令和4年度に入ってから落ち着いたこと等が考えられる。



(4) 今後の対応

材価はウッドショックのピーク時と比較して落ち着いた状況であるものの、特に県産材出荷の過半を占めるヒノキについては、いわゆるウッドショック（令和3年3月）以前と比較しても生産量及び販売単価は高い水準で推移している。

また、木材消費は、資材価格の高騰等の影響から住宅着工が伸び悩んでいる状況にあるが、現在、円安や海上輸送運賃の上昇等の影響により国産材への関心が高まっている。

こうした状況を県産材の販路拡大を図る好機と捉えて、高性能林業機械や加工施設の整備に対する支援等を通じて、川上から川下までの県産材のサプライチェーンの強化を図る。